



通信

HP 学校だより
R5.11.10
NO.27
文責 伊藤美佳



実際に観、聴き、その場の空気を感じる

8日（水）に校内学芸会を実施しました。今年は学芸会とし、子どもたちからは「教科書のお話ではないものが見られる。楽しみだ。」といった声も聞こえてきました。

6年生が学級閉鎖となっているので、5年生の子どもたちがはじめての会の司会、あいさつ、舞台の背景画や台の移動などを行ってくれました。今年度は、以前のように高学年が他の学年をお手伝いしてくれる学芸会となります。来年度、この経験がいかされることを期待したいです。

2年生「クック島のぼうけん」、1年生「スイミー」、3年生「サーカスのライオン」4年生「ごんぎつね」、5年生「世界でいちばんやかましい音」を全校で見ることができました。

どの学年の劇も一生懸命に練習した成果が感じられました。決められた台詞を言うだけでなく、自分なりに考えた動作や表情を加えて演技をしている子どもたちも多くいましたし、自分たちの劇をよりよくしたいという思いも伝わってきました。また、観客としての子どもたちは、劇中の台詞に反応して一緒にカウントダウンしたり、声をかけたりする姿も見られ、心から楽しんでいる様子でした。みんなで観ることのうれしさも加わり、先月の観劇会のような反応でした。

下校の時に、他の学年の劇を観てどうだったか聞いてみました。「5年生の劇が面白かった。」「3、4年生の劇に感動した。」「2年生の劇がおもしろくて、九九をやったときのことを思い出した。」「1年生の劇はかわいかった。」などなど。きっと、観た劇の中に「あこがれ」の存在を見つけ出したことでしょう。学芸会を通して、「より上手になりたい」そんな思いをもって前進し、やりきる勇氣、新しいことにチャレンジする気持ちを育んでくれたらうれしいです。

さあ、明日が本番です。校内学芸会から2日間で、より思いが伝わるものを創り上げようと、取り組んできた成果が表れます。見ている観客にストーリーと思いを伝えるには、「どのくらいの声」で、「どんな表情」で演じたらよいのか、一人一人が考えて動くことができれば、満足のいく作品となることでしょう。

インフルエンザが流行しています。手洗い、換気など感染予防をし、学芸会当日は、子どもたちが自己最高の演技をしてくれると信じています。そして、頑張ってやりきった自分に自信をもち、次の学びへ意欲的に向かってくれることを期待します。

※6年1組、2組はインフルエンザの感染予防のため水曜日まで学級閉鎖となってしまいました。楽しみにしていた6年生の劇を見られないことが分かった子どもたちが「6年生の劇が見たいな。」「ビデオとかではなくて、その場で見たいな。」そんな気持ちを伝えてくれました。画面からでは伝わらないものがあることを、ちゃんとわかっていることに安心しました。他学年の子が6年生の劇を金曜日に観劇できることにしました。また、6年生が他学年の劇を学芸会当日に観劇します。